

【小学校・中学校・義務教育学校用】

様式1(小・中)

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	基山町立基山中学校
-----	-----------

1 前年度評価結果の概要	年度当初に立てた重点取組内容の多くは、成果指標に照らし合わせて、概ね達成できたと思われる。学校評価に関する生徒、保護者、職員へのアンケート結果も、各設問に対して肯定的な評価が多く、学校評議員の方々からも生徒の様子に関してはお褒めいただいている。校長のリーダーシップの下、学校運営がスムーズになされていると思われる。本校の課題である特別支援教育と不登校に関しては、チームで対応し、外部との連携も進み、効果が徐々に上がっているものの、全学年とも数名の不登校生徒がいる状況なので、今後も家庭や外部機関との連携をさらに深めたい。また、学習面では、12月調査での目標としている成果指標をいくつかの教科で上回れなかった。さらなる職員の指導力向上を目指していかねばならない。
--------------	--

2 学校教育目標	「きたえ やりぬき まなびあう」～自律と共同の学校づくりを通して～
----------	-----------------------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①「基本的な生活習慣」の定着…落ち着きのある学校生活 ②「豊かな心」の育成…思いやりある風土づくり ③「生徒(会)活動」の充実…活気に満ちた活動 ④「確かな学力」の定着…自ら学び続ける生徒の育成 ⑤「組織力」の強化…「いしがき」をイメージした組織づくり
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員が授業づくりのステップ1・2・3の内容を共通理解し、共通実践を目指す。	●学力向上対策評価シートに記載したマイプランの成果指標を達成した教師の割合が90%以上をめざす。	●各職員が立てたマイプランを提示、共有し、校内研修や授業研究会等で取組を促進する。	B	●11月現在で、11回の研究授業(初任研・中堅研を含む)を行い、90%以上の教員が授業参観をし、研修を積んでいる。 ●1～2月には、12月研調査の結果を踏まえ、今年度の授業計画の反省、来年度の計画を検討する予定である。	A	●3月までに、20回の研究授業(初任研・中堅研を含む)を行い、ほぼ全ての教員が授業参観をし、研修を積んでいる。 ●研究授業においては、授業づくりのステップ1・2・3の内容を基盤として授業を行い、参観者も同様の視点で授業を参観し、研修を積むことができた。	A	●生徒の学力向上について、全職員でポイントを共有し指導していると思います。 ●授業について、周りの保護者や生徒から不満を聞くことがありません。問題なくできていると感じています。	学力向上コーディネーター
	○生徒一人一人が、主体的に学習に取り組む授業づくりを目指す。	○12月県調査の正答率の対県比が全教科で1.00を上回り、かつ前年対県比から0.02ポイントの上昇を目指す。	○授業の振り返りとともに重点を置いた授業の展開を実施する。 ○授業でのタブレット活用を促進し、生徒が主体的に取り組む授業を実施する。	A	●授業研究会では、授業参観の視点として「授業づくりのステップ123」から3つの視点に絞って研究会を行った。特に授業の振り返り、ICTの活用法について研究会を行った。 ●全教科で昨年度の振り返りシートを修正して今年度の授業に臨んでいる。	A	●2年生においては、12月県調査の正答率の対県比が全教科で1.00を上回ることができた。かつ昨年度の結果より、すべての教科で0.02ポイント以上の向上が見られた。 ●1年生においては、国語・数学・英語で、1.00を下回っている。このことは来年度の課題である。	A	●生徒が学びあう時間、主体的に取り組む時間を盛り込んだ授業を行っており、またICT活用の研究を行っていることが、学力向上につながっていると思います。 ●コロナ感染症のため、長期間、休んでいる生徒に対して、タブレットで課題を示しているのがよい。	学力向上コーディネーター
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性など、豊かな心を身に付ける教育活動を実施する。	○学校評価アンケートの「特別の教科 道徳」に関する質問において、その取組や成果に肯定的な回答を行った教師、生徒の回答の割合が90%以上を目指す。	●「考え議論する道徳」の授業の実践を行う。 ●人権週間での集会や標語作成を実施する。 ●PTAと連携したボランティア清掃活動を実施する。	A	●職員対象のアンケートでは、道徳の授業などによる心の教育の実施に対して、95%以上の職員が肯定的な回答をしている。 ●11月にPTAと連携したボランティア清掃活動を実施し、保護者30名、生徒60程度の参加であった。	A	●2月の職員対象のアンケートでは、道徳の授業などによる心の教育の実施に対して、95%以上の職員が肯定的な回答をしている。 ●2月の生徒対象のアンケートでは、心の教育について、97%以上の生徒が肯定的な回答をしている。	A	●「考え議論する道徳」に取り組んでいるのは、今後の新しい問題にも対応できる心を教育していると思う。 ●生徒たちが精神的にもっとも大きく成長する時期なので、今後も道徳の授業をしっかりと取り組んでほしい。	道徳主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実させる。	○学校評価アンケートのいじめを許さない雰囲気作りや教師の指導に関する質問において、肯定的な回答を行った教師、生徒の回答の割合が90%以上を目指す。	○週末アンケートの確実な実施、内容の把握、早期対応、早期指導を行う。 ○いじめ防止研修会を実施する。	A	●職員対象のアンケートでは100%の職員がいじめを許さない雰囲気作りに対して肯定的な回答を行った。 ●いじめや問題行動等の把握を迅速に行えるようアンケートの実施を毎週木曜日に変更し、確実に実施できている。	A	●2月の生徒対象のアンケートでは、いじめ指導について、89%以上の生徒が肯定的な回答をしている。	A	●週末アンケートによって、スピーディーにかつ的確に問題に対応していると感じている。 ●いじめを発見するのは、大変難しいと思う。水際でいかに対策するかが大事と思うので、今後もしっかりと取り組んでほしい。	生徒指導主事
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣を形成させる。	○本校教育目標「きたえ やりぬき まなびあう」を念頭に置いた志を高める教育の実践を行う。	○学校評価アンケートの「自分の夢や目標に向かって努力を続けているか」という質問に対して、肯定的な回答を行った生徒の割合が90%以上を目指す。	A	●生徒を前面に立てた活動の計画と実践を行う。 ●学習や部活動、学校行事において活動の振り返りを行う場面を設定する。	A	●生徒対象のアンケートでは80%の生徒が肯定的な回答を行った。20%の生徒は「早寝早起き朝ごはん」が定着しておらず、家庭への啓発が必要と思われる。	A	●肯定的な意見の生徒が多かったということから、適切な指導が行われているということだと思ふ。 ●今後も生徒一人一人が活躍できる場をたくさん作ってほしい。	主幹教諭
	○望ましい食習慣の確立を目指す。	○学校評価アンケートの質問「健康に食事は大切である」に対して、生徒の肯定的な回答を行った生徒の割合が90%以上を目指す。	●学校給食を教材に、バランスのとれた、健康づくりに特化したメニューを考案させる。	A	●生徒対象のアンケートでは、98%の生徒が食事の重要性を認識している。 ●給食のメニューの考案も町の給食センターとタイアップして取り組む予定である。	A	●2月の生徒対象のアンケートでは、前回同様、100%の職員がいじめを許さない雰囲気作りに対して肯定的な回答を行った。 ●2月の生徒対象のアンケートでは、いじめ指導について、89%以上の生徒が肯定的な回答をしている。	A	●ほとんどの生徒が、基本的な生活習慣を身に付けていると思います。 ●成長期におけるとても大事なことなので、今後も引き続きしっかりと取り組んでほしい。	保健主事 生徒指導主事
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	●県と町の部活動ガイドラインを遵守する。 ●行事等の精選を行い、ゆとりのもてる時間の確保をする。 ●学校閉庁日を設定する。	B	●部活動については平日の体育館での密を避ける対策として土日の活動を認めたため、変則的な形となっている。 ●業務記録表の毎日の入力も定着している。しかし、超過勤務月45時間以内の達成は、まだ遅い。	B	●週末の部活動は、コロナ感染症対策として変則的な形ではあるが、休日をきちんと設けて活動できている。 ●中間報告時に比べて幾分か超過勤務の時間が減ってはきたが、まだまだ45時間以内には程遠い現状である。	B	●遅くまで、職員室の電気がついていて心配になります。 ●難しい問題であるが、教職員の一人一人の負担を少しでも減らす方法を探さなくてはならない。	教頭 主幹教諭
	○働き方改革の推進	○教職員全体に対して、勤務時間を意識した働き方を浸透させるために、毎月の職員会議で呼びかける。	●定時退勤日の確実な実施を行う。 ●教職員のメンタルヘルスチェックを実施する。	B	●定時退勤日は設定しているが、完全な実施には至っていない。 ●メンタルヘルスチェックについては、今後実施予定である。	B	●定時退勤日の完全実施は、コロナ感染症の学級閉鎖の対応等のため達成されなかった。 ●メンタルヘルスチェックについては、教育委員会指導のもと実施することができた。	B	●教員のメンタルケアを丁寧に行ってほしい。 ●部活動の外部コーチをもっと増やし、教員に本来の業務に集中できる時間を作ってはどうか。	校長 教頭

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援	○生徒の特性を理解するための職員の研修を深める。	○講師を招いた特別支援教育に関する研修会を開催する。 ○特別支援教育推進委員会で協議した内容を全員が共有できるよう連絡体制を確立する。	●夏休業中に、研修会を開催する。 ●特別支援教育推進委員会で協議した内容を全員が共有できるよう連絡体制を確立する。	B	●特別支援教育推進委員会を毎月実施することができた。研修会も8月に行うことができた。 ●推進委員会で検討した内容は、生徒指導協議会で全職員に共通理解を深めているが、まだまだ改善点は多い。	B	●特別支援教育推進委員会を毎月実施することができた。また、全職員にも生徒指導協議会において共通理解を深めることができた。 ●一人一人の特性に応じた支援を続けていくためには、外部との連携も必要であるため、更なる研修が必要である。	A	●一人一人の特性に応じた支援を今後も続けてほしいと思う。 ●個人の特性は様々あると思うので、大変ではありますが、今後とも研修は続けていってほしい。	特別支援教育コーディネーター
○不登校支援	○家庭との信頼関係を築くために、綿密に連絡を取り合う。 ○専門機関との相談体制を計画に行う。	○新たな不登校の発生0を目指す。	●S・C、SSWを交えた教育相談部会を定例化する。 ●教育相談部会の内容を全職員で共通理解するための体制をシステム化する。	B	●SSWや支援員と連携し、家庭訪問などを行った。また、S・C、SSWを交えた教育相談部会を毎週実施できている。 ●3年生の中には、2学期に入り少しずつ登校できるようになった生徒が増えたが、新たな不登校発生もあり、今後とも努力を要するところがある。	B	●1年生で新たに3名の生徒が不登校になったが、1名は登校できるようになり、1名は町の支援教室につなげ、1名は時間外であるが学校に登校できるようになってきている。今後も粘り強い支援を続けなければならない。	B	●それぞれの事情や特性に合わせて長期的なサポートを今後もお願いしたい。 ●生徒や保護者が意見や気持ちを言える場があると望ましい方向に行くのではないだろうか。	教育相談担当

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	年度当初に立てた重点取組内容の多くは、成果指標に照らし合わせて、概ね達成できたと思われる。学校評価に関する生徒、保護者、職員へのアンケート結果も、各設問に対して肯定的な評価が多く、学校運営協議会委員の方々からも生徒のようすに関してはお褒めいただいている。校長のリーダーシップの下、学校運営がスムーズになされていると思われる。本校の課題である特別支援教育と不登校に関しては、チームで対応し、外部との連携も進み、効果が徐々に上がっている。今後も連携を深めたい。 ●生徒が主体的に学習に取り組むよう研究・実践を進めてきている。タブレットPCも活用しているがさらに効果的に活用できるよう工夫を重ねたい。
----------------	--